

平成29年6月定例会 経済委員会（事前）

平成29年6月12日（月）

〔委員会の概要 商工労働観光部関係〕

岩佐委員長

休憩前に引き続き、委員会を開きます。（11時04分）

これより、商工労働観光部関係の調査を行います。

この際、商工労働観光部関係の6月定例会提出予定議案等について、理事者側から説明を願うとともに、報告事項があれば、これを受けることにいたします。

【提出予定議案等】（資料①）

- 議案第1号 平成29年度徳島県一般会計補正予算（第1号）
- 議案第2号 平成29年度徳島県中小企業・雇用対策事業特別会計補正予算（第1号）
- 報告第1号 平成28年度徳島県繰越明許費繰越計算書について

【報告事項】

- 「とくしま特選ブランド」の認定について（資料②）
- 「とくしまマラソン2017」の開催結果について（資料③）

朝日商工労働観光部長

それでは、商工労働観光部から今議会に提出を予定しております案件につきまして、お手元の経済委員会説明資料に基づき、御説明させていただきます。

1 ページをお開きください。

一般会計、特別会計予算についてでございます。

商工労働観光部の平成29年度一般会計につきましては、左から3列目、補正額欄の最下段に記載のとおり、3億6,170万円の増額をお願いしており、補正後の予算額は合計で721億1,273万6,000円となっております。

2 ページをお開きください。

特別会計につきましては、補正額欄の最下段に記載のとおり、34億5,000万円の増額をお願いしており、補正後の予算額は合計で1,302億6,390万8,000円となっております。

次に、3 ページを御覧ください。課別主要事項説明でございます。

まず、新未来産業課でございます。

中小企業振興費の摘要欄の①中小企業雇用対策事業特別会計繰出金として、「LED×藍」産業応援ファンドを創設するため、中小企業雇用対策事業特別会計に繰り出す経費として、2億5,000万円を計上しております。

4 ページをお開きください。

中小企業雇用対策事業特別会計の摘要欄の①「LED×藍」産業応援ファンド造成資金貸付金として、LED、藍という本県が誇る2つの青を活用した新商品技術開発、ブランド化等に対する積極的な支援のために、中小企業基盤整備機構からの無利子借入金32億円

を継続活用することにより、新たなファンドを造成するための経費として、34億5,000万円を計上し、官民協力により、総額43億円の「LED×藍」産業応援ファンドを創設することとしております。

5ページにまいりまして、労働雇用戦略課でございます。

計画調査費の摘要欄の①地方創生の深化のための支援費のア、プロフェッショナル人材フラグシップモデル事業として、プロフェッショナル人材を活用し、本県企業の生産性の向上、働き方改革を実現するため、国の地方創生推進交付金を財源として、全国のプロフェッショナル人材戦略拠点の連携により、効果的に人材を発掘するとともに、大企業から県内企業への出向等の柔軟な働き方や、働きやすい職場環境づくりを促進するための経費として、2,000万円を計上しております。

6ページをお開きください。産業人材育成センターでございます。

職業訓練総務費の摘要欄の①技能振興費のア、技能向上対策支援事業として、若年者が技能検定を受検しやすい環境を整備し、本県におけるものづくり分野を支える人材を確保育成するため、受検料の減免を行うための経費として、170万円を計上しております。

7ページにまいりまして、観光政策課でございます。

計画調査費の摘要欄の①地方創生の深化のための支援費のア、とくしまLEDデジタルアートフェスティバル開催事業として、本県の魅力の発信力向上を図り、インバウンドを含めた観光誘客を促進するため、徳島市との協調による、LED及びデジタルアートを活用した作品展示とイベントを開催する経費として、8,000万円を計上しております。

また、イ、空駆ける！とくしま魅力発信事業として、本県への観光誘客や県産品の販路拡大を図るため、去る5月11日に包括連携協定を締結したANAホールディングス株式会社とのタイアップにより、首都圏での観光誘客キャンペーン等を開催する経費として500万円を計上しております。

8ページをお開きください。にぎわいづくり課でございます。

観光費の摘要欄の①観光交流推進費のア、ウェイクボード世界選手権大会開催準備事業として、平成30年8月30日から9月2日の4日間にわたり三好市において開催されるアジア初のウェイクボード世界大会成功に向けた体制を整備するため、円滑な大会開催に向けた実施計画の策定や、国内外に向けてのPR活動などに対する支援のための経費として、500万円を計上しております。

次に、9ページを御覧ください。債務負担行為でございます。

新未来産業課における、「LED×藍」産業応援ファンド造成事業に関し、公益財団法人とくしま産業振興機構が行う、金融機関からの借入れに対し、限度額欄に記載の範囲で損失補償を行うものでございます。

続きまして、10ページをお開きください。

その他の議案等といたしまして、平成28年度繰越明許費繰越計算書でございます。

さきの2月定例会におきまして、繰越しの御承認を頂いておりました各事業につきまして、それぞれ資料に記載のとおり、繰越額が決定したことを御報告させていただきます。

これらの事業につきましては、国の地方創生拠点整備交付金を活用した工業技術センターと大鳴門橋架橋記念館エディの施設改修工事や、アスティとくしま、あすたむらんど徳島の設備改修工事に関するものとなっております。

今後とも、事業の早期完了に向けて努力してまいります。

商工労働観光部におきまして、今議会に提出を予定しております案件につきましては、以上でございます。

御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

続きまして、この際、2点御報告させていただきます。

1点目は、とくしま特選ブランドの認定についてでございます。

お手元に、2ページ構成の資料1、「とくしま特選ブランド」の認定についてをお配りさせていただいておりますので、この資料により御説明させていただきます。

1ページを御覧ください。

とくしま特選ブランドにつきましては、これまで4回の審査会を経て、徳島県を代表する優れた県産品87点を認定しているところであります。

去る5月24日に実施した、5回目となる審査会では全22点の申請商品について、審査委員が厳正に審査した結果、国内外に誇れる品質、商品ストーリー、独自のこだわりの3点を兼ね備えた商品として、2ページに掲載しております6点を新たに認定いたしました。

認定された商品につきましては、来る6月16日に認定証交付式を行い、様々な媒体を通じて、国内外に向けて広くPRしてまいります。

なお、惜しくも認定とならなかった事業者や、今後、認定を目指す事業者に対しまして、商品力の更なるレベルアップに向けた支援に取り組んでまいりたいと考えております。

2点目は、「とくしまマラソン2017」の開催結果についてでございます。

お手元の資料2、1ページを御覧ください。

2017大会につきましては、去る3月26日に開催し、海外ランナーを含め県内外から14,294人のエントリーがあり、12,454人が出走し、11,522人が完走されたところであります。

2ページを御覧ください。

とくしまマラソンの会計期間は、8月1日から7月31日までとなっております。現在、2017大会の決算は確定しておりませんので、決算見込みで御報告させていただきます。

2016大会の決算では、約700万円の支出超過となったことから、2017大会は、収支両面において改善に努めたところであります。

現時点におきましては、収入が2016大会と比較し、300万円の増の約2億2,800万円、支出が、800万円の減の約2億2,400万円であり、昨年度の収支不足700万円を解消した上で、約400万円の黒字決算となる見込みであります。

2018大会の運営については、今後、実行委員会において検討していくこととなりますが、引き続き、収支の健全性が確保できるよう努めてまいりたいと考えております。

また、2018大会の実施に伴う県予算につきましては、来る9月定例会に補正予算として提案できるよう、準備を進めたいと考えております。

委員各位におかれましては、一層の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

最後に、お手元には、県内主要景気指標に関する資料を配付させていただいております。

今後、各定例会の事前委員会におきまして、配付いたしたいと考えておりますので、御参考に供していただきますようお願い申し上げます。

説明及び報告については以上でございます。

よろしくお願ひいたします。

岩佐委員長

以上で、説明等は終わりました。

これより質疑に入ります。それでは質疑をどうぞ。

岡田委員

先ほど委員会説明資料の中で説明いただきました、7ページに記載があります、とくしまLED・デジタルアートの8,000万円の予算について何点か質問をさせていただきます。まず徳島県は、平成20年度以来8年ぶりに起債許可団体を脱出しましたが、依然として厳しい財政状況にあるというのは、もう当然のことでございます。県は当初予算で年間を通ずる総合予算を編成したはずですが、平成29年度冒頭の6月議会において8,000万円という県単予算を提案することとなった経緯についてと、予算編成方針はいつ変更をされたのかをまずお願ひいたします。

黄田観光政策課長

とくしまLED・デジタルアートフェスティバルの関係についての御質問でございます。まず、このフェスティバルにつきまして、これまで徳島市で3年ごとに開催されてきたところでございますけど、今年の1月に徳島市長から、このフェスティバルにつきまして、毎年の継続開催を検討するとともに開催に当たりまして、LEDバレイ構想を踏まえ県と十分連携したい、というふうな意向表明がなされたところでございます。

それと、2月議会での御論議等も踏まえまして、その後、実行委員会等を開催いたしまして、来年の2月に開催するということが決定されたところでございます。来年の2月の開催となりますと、いろいろと観光誘客を進めるに当たりまして、対外的なPRでありますとか準備にかかるということもございまして、6月議会に補正予算案の提出をさせていただいたところでございます。

岡田委員

はい、ありがとうございます。ということは、2月に開催を決定したという徳島市での実行委員会の結果を受けて、予算編成の変更をされたというのでよろしいでしょうか。

黄田観光政策課長

先ほども申し上げましたけども、1月に徳島市長さんからの表明がございまして、それを受けまして、2月議会での御論議と、実行委員会等の議論も踏まえて、6月議会での補正予算という形で提案をさせていただいたところでございます。

岡田委員

はい、8,000万円という金額について、今度は、この予算の根拠となることについてお伺いさせていただきます。何にかかる経費なのかということが、詳細が分からないので、部長からも説明がありましたけども、展示とイベントっていうザックリな話でして、全然中

身が見えてこないという点で、その金額の割には中身が漠然としているという印象を受けました。どこに根拠があってその金額がはじき出されたのかということ。また、その具体的な事業内容はどうなっているのかということ、それともう一つは補助の要綱はどうなっているのかという件についてお伺いします。

黄田観光政策課長

8,000万円のこの補助金のご関係でございますけど、これまで、まず、5月1日に県が所管いたします、とくしまLED・デジタルアート推進協議会を開催いたしまして、翌2日には、徳島市所管の徳島LEDアートフェスティバル実行委員会をそれぞれ開催いたしまして、その中でいろいろと決定をしてきたところでございます。

具体的には経済界、観光、交通、まちづくり、報道、行政等の関係者で構成いたします実行委員会が主催となりまして、開催日程として平成30年の2月9日から18日の10日間、それからエリアといたしまして、県が主体的に取り組む万代倉庫、県庁のエリア、徳島市が主体的に取り組む新町川、城山公園エリアにおきまして、デジタルアートを活用した作品展示でありますとか、あとエリアが拡大されますので、その周遊性も向上させて観光誘客、にぎわい創出。また子供たちが先端技術に触れる機会の創出等の関連イベントを開催することとしたところでございます。

それと補助要綱等につきましては、補正予算案をお認めいただいた後に検討してまいりたいと考えています。

岡田委員

8,000万円になった根拠はいかがですか。

黄田観光政策課長

この8,000万円につきましては、昨年、徳島市で開催をされました徳島LEDアートフェスティバルの内容等を踏まえまして、参考にして積算をしたところでございます。

岡田委員

徳島市が実際に開催された、去年の徳島LEDアートフェスティバルが、幾らかかってその8,000万円が県の負担金として計上されたのか、もう少し詳しく教えてください。

黄田観光政策課長

徳島市からお聞きしているところでは、全体の事業費といたしまして、1億6,000万円程度かかっているというふうに聞いております。それを参考に今回8,000万円という形で予算を提出させていただいたというところでございます。

岡田委員

簡単にいうと県が半分を負担しますよ、ということで8,000万円という算出がされたのでしょうか思えないんですね。今、説明していただきましたけど、その万代倉庫というのは新たに作る場所ですよ。

それともう一つ言うと、去年された徳島市さんのイベントで何も残っていないじゃないですか。その1億6,000万円かけてそれぞれのLEDアートというのがいろんな場所で開催されてます。その大きなイベントとして使い捨て金額じゃないですけど、目に見えて楽しむただ単なるイベントとして残っているだけであって、ここですごいフェスティバルがあったよねというような、思い出に浸るような場所もなければ、何の説明もないように思うんです。

それと8,000万円という金額はすごい金額なんですよ。皆さんいろんなところで県の予算、10万円、1万円もなかなか予算がとれない現実があるのに、この8,000万円という金額だけが商工労働観光部の中では、大きく動いている。

それで算定根拠が、ものすごく漠然としたもので、漠然とした事業をしますっていうことと、開催日ありきで全て計算されているようにしか聞こえてこないの、その具体的なところがどうなっていくのか、非常に不安を感じているところです。

また中身が、県民に対して、そのお金を使うからどういうふうなバックができるのかというところで、来て楽しむというだけのイベントにしたなら、去年も見せてもらいましたけど、ずっと同じ曲が流れてて、何回も行こうというよりは、一回見たらまあいいかと。やっぱりイベント期間を長くするなら長くするで、その中身をもう少しどうするかという議論も聞こえてこない中であって、単に予算ありきと開催日ありきっていうだけのイベント事業だったら、非常にもったいないと思うし、それは無駄ではないかと思えます。その開催理由っていうのが、なかなか理解してもらえないんじゃないかと思うんですけどいかがですか。

黄田観光政策課長

昨年の徳島市のフェスティバルにつきましては、新町川、それから城山公園エリアで開催されたという形で、今回のフェスティバルにつきましては、県も参画して協調してやるという形で、エリアを県がこちらの県庁、万代倉庫のエリアを主に、主体的に取り組むという形で考えているところでございます。

それで一応全体の事業費としては、去年は、1億6,000万円程度かかっておりますけど、今回は、県では主に県庁エリアと万代倉庫のエリアを担当するという形で、そのシンボルアートの作品につきましては、去年の例を参考にして積算するとともに、あと関連イベント、それから全体の経費につきましては、徳島市と調整しながら、全体の8,000万円というのを計上しているところでございます。

あと作品につきましては、岡田委員がおっしゃいましたように、いろいろとそのときの先端的なものとかを採用して展示をされてるところでございまして、そこにつきましては、今後予算を認めていただいた後に、作品についても検討してまいりたいと思っております。

岡田委員

中身ありきでないと予算を付けられない。というのが正味のところです。予算ありきで中身を決めるというんだったら、誰でもできるのじゃないかと思ってしまいうんですけど、その部分でやはり議会としても、その予算というもののチェックを細かくしていかなければ

ればいけないところがあると思います。中身が見えてこそ、これだったらやって良いと思って、賛同してもらえそうなイベントを私たちもしてほしいし、県民の皆さんも、こんな徳島でしてくれてすごくうれしいわ、というものをやってほしいという期待が非常にあるんですね。だけど、今のところ、対象になるLEDアート作品を展示される方っていうのも、またこれから選考しますと、本当に何を聞いても、去年まで、3年ごとに徳島市がやったことの延長上にあるようなイベントで想像してくださいよ、というお話の中で、それはどう想像したらいいのかというのが一つ。徳島県の川口ダム自然エネルギーミュージアムや文化の森でやられた、いろんなLEDの作品アート展の中にあって、新しいアートを展示してくれるのかっていう部分。徳島にだけに作ってくれるのか、というようなものすごいワクワクするイベントの期待ができない中であって、この予算を認めてくれなかったら決まりません、と言われても中身の精査の仕方というのが、すごく甘いと思うんですけども、それについていかがですか。

黄田観光政策課長

とくしまLED・デジタルアートフェスティバルの内容の関係の御質問でございます。

今回、LEDにデジタルアートを融合した形で、全体のレベルアップを図っていった新たな文化を創造するとか、また、エリアを広げた形で、それぞれのエリアに特性を持たせて周遊性を向上させるとか、それぞれ情報発信を高めまして、国内外からの誘客を進める、また子供たちが先端技術に触れる機会を創出することによって、若い世代の方に科学技術への興味を醸成する、というようなこともコンセプトといたしまして、今後検討していきたいと考えているところでございます。

それから、このフェスティバルにつきまして、当初、徳島市でやってきたところでございますけど、もともと県のLEDバレイ構想のブランド戦略の取組の一つとして続ける中で、徳島市からの開催の要望がありまして、徳島市が実行委員会の事務局となって、平成22年に初めて開催されて、それから3年ごとに計3回開催されてきたという経緯もございます。それを踏まえて今回、県も、徳島市からの要請を受けまして、県市協調でこの企画をやっているという形になっているというところでございます。

岡田委員

さっき聞いた中身の話、スルーしましたよね。それは多分、はっきり言って中身が分からないよという証拠と思って聞かせてもらいました。

それで、今ちょうどLEDバレイ構想の推進という話で、徳島市との状況という話だったんですけど、徳島市以外、例えば、鳴門市と一緒にしてよといった場合だったら、鳴門市にもその2分の1の予算を出して、LEDバレイ構想の中で、県が負担して事業を進めてくれるのでしょうか。

福田商工労働観光部次長

先ほどの御質問の中身の議論についてでございます。

これにつきましては、今回、アート作品ということで、こういうようなLEDデジタルアートのデザインにたけた方を広く公募をして、決めようということにいたしております。

公募を出すに当たりまして、予算がこれくらいというようなところを出して、その予算の中でできるだけすばらしいものをというふうに考えております。公募ということを考えておりますので、予算の時点で具体的にこういう作品というのは、なかなかお示しができないというところがございます。これが一点でございます。

もう一点が、他の市町村が同じようなイベントをすれば、県が出すのかということがございます。先ほど課長が説明いたしましたように、この徳島市の徳島LEDアートフェスティバルというのは、もともと県にLEDバレイ構想があって、徳島市と一緒に実施しようという話があったということも御説明をさせていただきました。ただ、今後、他の市町村さんにおきましても、いろんなイベントでの県の協力については、それぞれ具体的にこの事業内容とか、市町村の思いであるとかをそれぞれお聞きをして、個別に判断をしていきたいと思っております。

岡田委員

ありがとうございます。中身についても公募される。公募するに当たり予算がいるというお話なんですけど、その公募にどれぐらいの相場があるか、相場想定っていうのができるかな、どれぐらいいるのかという話で公募はそれでできるのでないかなと思います。それでこういう人たちがきてくれるから、これだけ予算が要りますと言われたほうが、私たちとしてははっきりと中身が見えるし、そのお金がどう使われるか、どこに行くかというのがわかってくるので、そのほうが承認しやすいというのは、もう重々わかられていると思うんで、この話はこの程度にします。

もう一つ、各市町村さんから要望があればっていう話ですけども、実際に徳島市内でされるというと駐車場の問題でありますとか、鳴門のほうもかなりいっぱい見に来られてたんですね。まずそしたら、実際、場所自体には徳島市の中心部なんで、いろんな所に止めて皆さん行かれてたりするし、今度距離が広がるんだったら、県庁の来庁者駐車場を解放してくれるのか、とかいろいろ問題も出てくると思います。開催すればするほど、自分の地元でしてほしい、そうしたら子供もいけるし、じいちゃん、ばあちゃんも一緒に行けるでないか、というような話に絶対なってきます。はっきり言って徳島県はそれを目指しているわけですね。

LEDバレイ構想というのは、全県下に広めていって、いろいろ皆さんに関心を持ち、広げていっていただきたい、というならば、それぞれの各市町村さんの意向を踏まえてというお話でしたけども、県としては平等に各市町村にも対応していただくことを期待したいと思います。それは当然その議論があったときになるので、今ここで細かく言っても仕方ないけど、徳島市さんとの連携というのは是非考えていただかないと、他の市町村にとったら、何で徳島市だけにとというのも絶対あります。そのあたりは、肝に銘じての決断をされたとは思いますが、やっぱり私たちとしては、再度の話として要望をさせてもらいたいと思います。それに関して、市町村との連携については、今から前提としては考えられていないっていう状況なんですね。

福田商工労働観光部次長

もちろんLEDバレイ構想というのは全県下を対象にやっておるわけでございますので、

それぞれの市町村において、LEDのブランド化を進めたいというような思いがあって、ということがあれば、個別に御相談をさせていただきたいと思っております。

岡田委員

ありがとうございます。いろいろ御答弁いただきましたけど、議会に今日もその専用の資料というの提出されていませんし、その中身についても何もありません。今そのお話しさせてもらったのも、徳島市さんが去年されたのを踏まえての、私が見に行った感覚を受けての内容の想定で、話をさせてもらいます。

やっぱり議会で、予算を審査するにしたって、資料等が非常に少ないと思うんですね。経済委員会としても付託委員会までに、もう少し詳細な資料を出していただけるように、是非、委員長にお願いしたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

岩丸委員

今、岡田委員から、とくしまLED・デジタルアートフェスティバルについての質問がございました。非常に中身が詰まっていないということもございましたが、この提出された予算については、県としてもいろいろと検討はされているとは思いますが、しかしながら、この実施主体は、実行委員会ということでございますが、先ほどの説明の中で、実行委員会の中でいろいろ協議されたのは、日程であったり、エリアだったり、というような点が主なことを占めてまして、まだまだ実行委員会っていうもの自体の開催も少ないかな、という中で、もっとしっかりと実行委員会の中で、議論をすべきだと思いますが、その点どうでしょうか。

福田商工労働観光部次長

先ほどいろいろな御意見を頂きました。この実行委員会は徳島市に事務局がございます。そういった関係もございまして、実行委員会の委員長を、商工会議所の中村会頭がされているというようなこともございます。今日の御意見を十分踏まえまして、徳島市とか、実行委員会の委員長とも相談をいたしまして、実行委員会での議論というものを深めていきたいというふうに思っております。

岩丸委員

しっかり議論されるということでもございます。岡田委員から、しっかり検討した資料を出してくれというようなこともございましたので、そういった点も見張りながら、付託委員会の方で確認をさせていただきたいと思っております。最後に委員長に、よろしくお願ひいたします。

岩佐委員長

小休します。（11時35分）

岩佐委員長

再開します。（11時36分）

今、各委員からいろいろ御意見もあったんですけども、今の状況としては、先ほどの話がありましたように、中身が見えない状況であって、この予算についての審査というのは難しい状況だと思います。是非、岡田委員、また岩丸委員からも話がありましたけども、付託委員会までに、その実行委員会の中でも、例えば、議論を深めていただいて、判断ができるような事業計画であったりとか、そういうものを出していただきますよう、私からも要請をしておきます。よろしくお願ひします。

朝日商工労働観光部長

ただいまは、岡田委員、岩丸委員からも御議論を頂き、また委員長からも頂きましたので、私どもは、実行委員会の委員長とも十分に御相談をさせていただきまして、付託委員会までに何らかの形でまとめてまいりたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

高井委員

とくしまマラソンのことを少し教えていただきたいと思ひます。

収支決算の見込みということで御報告いただきまして、結果としては恐らく、去年は700万円の赤字で、今年は見込みとして400万円の黒字ということになりそうで、結果としてはよかったのかなというふうに拝見をいたしました。ちょっとこの収入の部の中で、補助金・負担金という項目が、昨年度より1,000万円多く出されていると思ひます。簡単で結構ですが、補助金と負担金のちょっと内訳をどちらから、幾らぐらいというのを教えてください。

森にぎわいづくり課長

収入の部の決算部分のうち、補助金・負担金の内訳ということでございます。これにつきましては、マラソン本体にかかる補助金・負担金といたしまして、徳島県が3,000万円、徳島市が1,000万円、それから徳島新聞社が1,000万円、という状況でございます。1,000万円については、10周年記念大会として開催いたしましたファンラン、それと、後夜祭の充実にかかって、それに伴う県の負担金の増というところでございます。

高井委員

県の負担分が1,000万円、今年が多かったという理解でよろしいですね。

あともう1点は、その他収入において、400万円去年に比べて減っておりますけれど、これって原因は何かおわかりになりますでしょうか。

森にぎわいづくり課長

その他収入の件につきましては、前回2016大会が、熊本地震の復興チャリティー大会で開催した関係で、チャリティー基金の御支援のお金が多かったというところでございます。

高井委員

とくしまマラソンは、大きなイベントとして引き続きこれからも頑張っしてほしいと思ひ

ますし、にぎわいづくりと、健康の面でも大きな効果がありますので、県としても頑張っ
てこれからもやっていく方向でいくんだらうと思いますが、昨年度終わった段階で、何か
課題等が今の段階でわかることがあれば教えていただきたいと思います。

森にぎわいづくり課長

次回大会におきましては、去る5月9日に主催者会議を開催いたしまして、その後、6
月5日に実行委員会下部組織でございます企画委員会を開催いたしまして、総括と2018大
会に向けてどういう点を改善するかとそういったところについて意見交換をいたしてお
ります。

意見の中で、特に多かった事項について御紹介をさせていただきたいと思
います。ランナーさんの意見で多かったのが、県庁前に荷物預けのトラックを駐
車させ対応していたのですが、その道幅が十分確保できていなかったために、周
辺に混雑がひどかったという点、それからスタート地点に、これも県庁周辺でござ
いますが、トイレを置いてあったんですが、それもちょっと列の管理ができてい
なかったために並び方がわからなかったということ、このあたりを、案内等改
善をしたいと考えてます。

それからスタート地点で、ランナーさんがブロックごとに並ぶという形をと
っておったんですが、それが基本的にはタイム順ということでしたが、一番前の
Sブロック、陸連登録者、それから招待選手などの並び位置でございますが、そ
の陸連登録者の中でも若干遅い方もいらっしやって、スタートした直後につか
えるといったような点もございましたので、そういった点を改善したい。それ
から、スタート会場のアナウンスも聞きにくい、そういった御意見がございま
したので、そのあたりを十分検討した上で、改善をしてみたい。

高井委員

いろいろと精査していただいて、引き続き頑張ってくださいと思います。

岩佐委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、商工労働観光部関係の調査を終わります。

午食のため、休憩いたします。（11時42分）